

4.3. 給食サービスへの満足度に関する調査の結果報告

～自立支援局所沢センター利用者の食生活の傾向と課題～

管理部総務課 内山久子

自立支援局総合相談支援部医務課 矢田部あつ子

総合相談支援部総合支援課 渡邊雅浩

栄養管理室では、自立支援局所沢センター利用者を対象とした給食サービスへの満足度に関する調査を半年毎に実施している。ここでは直近に実施した調査結果と、利用者の食生活の傾向について報告する。

【調査目的】 食事の質や給食スタッフの対応に関する満足度を調査し、安全で質の高い食事を提供する。 【調査期間】 2021年7月12日～9月10日

【調査方法】 利用者に調査用紙を配布し、投函箱を配置し回収した。調査用紙への記入が困難な者に対しては、職員が直接聞き取り代筆した。

【回答者数】 食堂利用者156名、回答者141名（回答率90.3%）

【回答者の内訳】 西棟56名（入寮41名 通所15名）東棟47名（入寮29名 通所18名）

機能訓練棟38（入寮38名）。 ※通所者には昼食のみ提供

【結果】 1. 食事内容については、「大変満足・概ね満足」が79.4%であった。「やや不満・不満」は7.8%で、20～30歳代に多くみられた。

2. 給食スタッフの対応については、「大変満足・概ね満足」が88%、栄養士の対応について「大変満足・概ね満足」が89.3%で、前回の調査結果とほぼ同様の結果であった。

3. 年齢別に調査項目を比較した結果、①朝食を「食べない・不定期」は、20～30歳代に多くみられた（ $p<0.002$ ）。②朝夕の主食は「量が多い」は、「ちょうど良い」と比較して、間食を摂取する者の割合が高かった（ $p<0.001$ ）。

4. BMIと調査項目を比較した結果、①BMI25以上の者は、30歳未満では5.0%、30歳以上では27.5%と年代が高くなるほど増加していた（ $p<0.02$ ）。②BMI25未満の者は、BMI25以上の者と比較して、「間食しない」と回答した者が多かった（ $p<0.007$ ）。

【考察とまとめ】 1. 満足度について、約80%の者から「満足・概ね満足」と回答を得た。利用者の年齢層は10歳代60歳代と幅広く、障害や原疾患も多岐に及んでいるため、味付けや調理の仕方など、多くの利用者が満足する食事の提供は中々困難であるが、日頃の食堂での関わりや本調査の聞き取り調査の機会などを通して、「満足」の比率を下げることがないよう工夫したい。

2. 主食を残す者に、間食している者が少なくないことから、主食の大切さや適量について、個別の相談やグループでの研修等の機会をつくり、具体的な支援をはじめたい。

3. 中高年以降の肥満者の増加については、国民健康栄養調査で報告されているため、年齢に配慮した食事提供が必要である。

4. 痩せや肥満、欠食や過食などの食習慣は、障害特性や生活環境の影響を受けていることが多く、個々の生活背景を理解した指導が必要である。今後、本調査で障害別の食習慣の傾向を探るための調査項目を設定し、「栄養管理ケアマネジメント加算」の導入など、個別の栄養管理に取り組むためのしくみを検討し、栄養指導の充実を図りたい。そのための人員体制の充実が望まれる。